

# みちくさ いたずら こどものじかん

新山 裕之



とうじ  
冬至（21日）… 東京では晴れの日が続き、乾燥が進む季節です …

日が暮れるのが早くなり、一年で一番昼間が短く、夜が長くなるのが冬至です。それ以上に東京では毎年晴れの日が続いて乾燥が進み、園庭に何度も水をまくのが日課になる季節です。そして、わくわく池の水が枯れていることに気付いた子どもたちは…。

## <乃東生 なつかれくさ しょうず 12月21日～25日>

冬至の初候は「乃東生」です。乃東（夏枯草 なつかれくさ）別名：ウツボグサは、他の植物が枯れ果てるこの時期に芽を出す、夏に枯れた花穂が漢方薬としても使われる植物です。

## <音楽会に向けて>

子どもたちと相談して、17日という発表の日を決めました。すると、子どもたちも先生たちも、学級や遊戯室で音楽会ということ意識して練習するようになりました。

少しずつ自信を付けてきた年中児は、職員室にいる事務の先生や主事さんにも「お客さんになってください」と誘って、感想を聞いて改善することを繰り返していました。私も見に行っては感想に加えて、改善するといったポイントを絞って伝え、あと少しで花マルだねと応援し続けました。

## <時間差を付けて学級・学年ごとの音楽会>

今年は何の行事も、時間差を付けて人数を減らし、密を避けての実施となっています。特に、かわいそうとは思いますが、お互いを守るためにマスクを付けて歌うという形での音楽会となりました。振りを付けることで、リラックスできるように工夫したものの、動くとき声が小さくなってしまいうこともあり、私たちが考えた通りにはいかないこともありました。本番では緊張する子もいましたが、それでも精一杯頑張っている姿は、どの子も愛おしい限りでした。

## <会場の一体感>

参加人数の制限があり、スマホなどでの撮影は止むを得ないと思っていましたが、実際に歌や合奏が終わるたびに、拍手が小さいのはやはり少し残念な気持ちでした。私は保護者分も含めて精一杯の拍手をしましたが、たまたまアンコールで歌を歌う場面があると、そこではスマホを置いて聞いてくれる方が多かったです。すると、自然に拍手が起こり、会場での演者と観客との一体感が大事だと改めて感じました。感想文にも同様のことが書かれていました。



幼稚園で採れた自然物で作ったリース



トップバッターは、年中たんぽぽ組



続いて2番手は、年中すみれ組



ドングリマラカスを振るあんず組



年長組は学年で歌と合奏を披露  
保護者は学級毎に参観



子どもたちは楽器を2種類  
担当して、2回公演しました



いちご組もマラカスを振って楽しそう